

# 青年の船

友情乗せた16日間



▲午前7時、朝のつよい潮風が身、引き締め

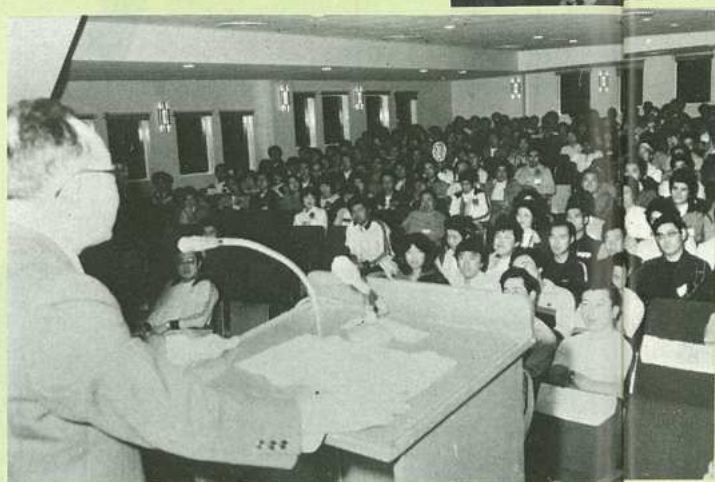


青年の船「明日の岩手を築く青年洋上セミナー」の一行は、友情と連帯に満ちた16日間の船内研修・寄港地活動を終え、2月8日無事釜石に帰港した。

青年の船は、青年の国際的な視野の拡大と社会参加の促進をねらいに、本県が初めて実施したもの。県内各地の20歳から35歳未満の青年341人が参加した。

一行を乗せた英国純クルーズ客船ゴーラルプリンセス号（1万ト、全長146m、全幅18.4m）は、1月24日釜石を出航。船内では、講義や地域の課題について語り合う地域別活動、ゼミナールなどの研修を重ねながら、洋上慰霊祭やヤングフェスティバル、洋上青年の主張大会、青年の船まつりなどの行事を通して団員同士の触れ合いを深めた。寄港地では、岩手の塔（沖縄）を参拝したほか、国際イネ研究所・アイアラ博物館（フィリピン）などを見学。フィリピン青年200人との交流も行った。

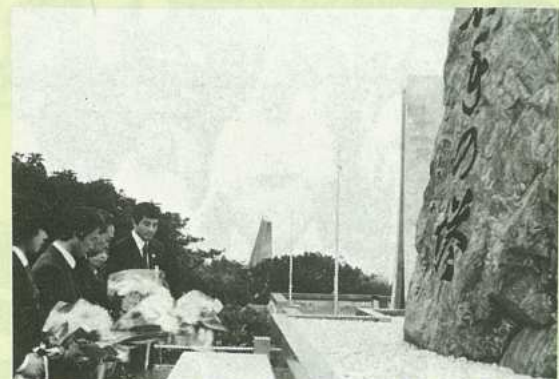
数々の成果を収めた青年の船。参加団員の貴重な体験はそれぞれの地域で花開くに違いない。



▲講義・講話やゼミナールなど、研修内容は豊富で示唆に富んだ。



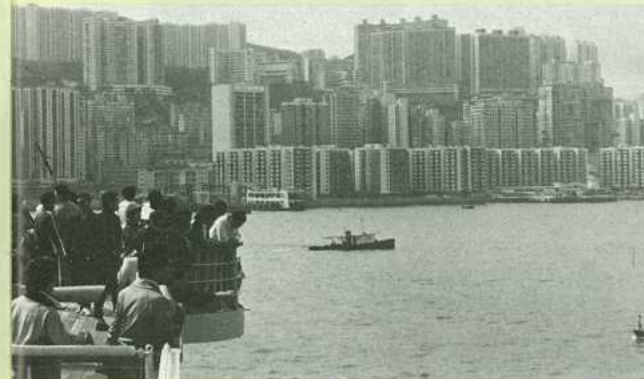
▲2月5日、青年の船まつり。郷土芸能やゲーム、寸劇を楽しんだ。ミス・ミスター青年の船も選出。



▲沖縄では岩手の塔を参拝。郷土出身将兵の冥福を祈った。



▲フィリピン独立の英雄ホセ・リサル紀念碑へ献花。



▲香港入港一。異国の地を前に胸がはずむ。



▲マルコス大統領に表敬訪問。団員代表2人も参加。